



2019年4月12日

各 位

会 社 名 株式会社 **ラピーヌ**  
代表者名 代表取締役社長 青井康弘  
[コード番号 8143 東証 第2部]  
問合せ先 常務執行役員経営統括本部長 尾崎史照  
(TEL 06-6946-3600)

## 特別損失（減損損失）の計上、2019年2月期通期連結業績予想と実績との差異 及び中期経営計画の修正に関するお知らせ

当社は、2019年2月期の決算において、下記のとおり特別損失として固定資産の減損損失を計上することといたしましたのでお知らせいたします。また、2018年10月12日に公表いたしました2019年2月期通期連結業績予想と本日公表の実績値とに差異が生じたので、下記のとおりお知らせいたします。

### 記

#### 1. 特別損失（減損損失）の計上について

当社グループは、直近の経営環境における事業の収益性を鑑み、本社を含む共用資産等（建物及び構築物、機械装置及び器具備品）につきまして「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき、2019年2月期において940百万円を減損損失として特別損失に計上することといたしました。

#### 2. 通期業績予想（連結）と実績値との差異について

(1) 2019年2月期通期業績（2018年3月1日～2019年2月28日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想（A）	9,450	△ 250	△ 240	100	42.73
実績値（B）	9,376	△ 386	△ 379	△ 950	△ 405.56
増減額（B－A）	△ 73	△ 136	△ 139	△ 1,050	
増減率（%）	△ 0.8	—	—	—	
（ご参考）前期実績 （2018年2月期）	9,894	112	135	132	57.18

(注) 1株当たり当期純利益の端数処理方法は、有価証券報告書、四半期報告書に合わせて切捨てとしております。

## (2) 差異が生じた理由

当社の主たるターゲット層を中心に婦人衣料品に対する個人消費が力強さを欠く中、冬場の暖冬傾向などから秋冬物の販売が苦戦し、通期の売上高は2018年10月12日発表の予想数値を下回る結果となりました。

損益面においては、経費全般の節減に取り組み、販管費及び一般管理費の抑制を行いましたものの、売上高の減少により、営業損益及び経常損益はそれぞれ前回予想を下回りました。また、上記1のとおり、特別損失を計上しましたことから、親会社株主に帰属する当期純損益も前回予想を大きく下回りました。

## 3. 配当金について

2019年2月期の期末配当につきましては、2018年10月12日に公表いたしました1株当たり15円の予想から変更はございませんが、資本剰余金を原資として実施する予定です。詳細は、本日公表の「資本金の額の減少、剰余金の処分並びに剰余金の配当に関するお知らせ」をご参照ください。

## 4. 中期経営計画の修正について

2019年2月期につきましては、業績計画の達成に向けて様々な取り組みを実施してまいりましたが、上記1の特別損失の計上も含め、上記2に記載のと通りの業績となりました。

こうした状況を踏まえ、改めて市場環境や当社グループの販売体制等を総合的に勘案し、5年目を迎える中期経営計画「NL2020」の見直しを行いました。最終年度である2020年2月期通期の業績計画は、本日公開の「2019年2月期 決算短信」の「3. 2020年2月期の連結業績予想」に記載のとおりであります。

以 上